

みんな「きせき」の子

小 六

ぼくは、命が一番大切だと思います。

ゲームの中では、命を失っても生き返れます。けれど、人間には、命は一つしかありません。一人に一つだけの大切な命です。この世に生まれてきた人は、みんな「きせき」だと思います。

ぼくには、年のはなれた小さな弟と妹がいます。弟が三才、妹が一才です。弟と妹が生まれるときに、母はお医者さんに、

「出生前しん断の検査を受けますか。」

と聞かれたそうです。出生前しん断とは、お腹の中の赤ちゃんに障害があるかどうかを調べる検査です。もし、染色体に異常があると、赤ちゃんにダウン症などの障害

がある可能性があります。特に三十五才以上の高れい出産のにん婦さんは、染色体異常のリスクが増えるので、必ずにんしん初期に検査を受けるのか聞かれるそうです。母も聞かれましたが、弟のときも妹のときも、その検査は受けませんでした。

しかし、今、検査を受けて染色体に異常があったにん婦さんの九十六パーセントの人が、赤ちゃんを産むことをあきらめていると聞きました。その赤ちゃんは、障害があるかもしれないという理由で生まれてくることができないのです。このことを知って、とてもおどろきました。そして、不思議に思いました。障害があるから産まないというのは、おかしいと思うのです。赤ちゃんは、生きるために生まれてくるのに、障害があるだけで、その赤ちゃんの命をうばってよいのでしょうか。ぼくは、そ

の赤ちゃんがかわいそうだと思いました。生まれるために来たのに、命をうばわれるなんて、生きる権利をうばわれていると感じました。

もし、弟や妹が、障害があるかもしれないからといって、生まれてくることができなかつたら、兄弟になることもできません。そんなことは絶対にいやです。とても悲しくてさびしくなります。でも、こういう悲しいことが、本当に現実にかけているのです。

ぼくは、お腹の中の赤ちゃん一人一人にも、生まれてくる権利があると思います。障害があっても、それは変わらずみんな一つの大切な大切な命です。これから生まれてくる赤ちゃんの人権も、絶対に守らなければいけないと思います。

ぼくは母に、なぜ、あのととき検査を受け

なかつたのかと聞きました。すると、

「赤ちゃんはね、お母さんの子になりたいし、あなたの弟、妹になりたいと強く願って、お母さんのお腹に来たのよ。この小さな命を守ってあげられるのは、お母さんしかいないの。自分の命と同じくらい、いや、もつと大切な命なのよ。だから、障害があつても、絶対に産んであげたいと思ったのよ。」

と言っていました。

母は、やっぱりすごいなと思いました。

ぼくたちのことを丸ごと受け入れて愛してくれているのだなと思いました。そして、改めて、弟、妹を産んでくれてありがとうと思いました。母が命がけで産んでくれた命を、ぼくは大切に一生けん命に生きたいと思っています。そして弟や妹に、もつと優しくしたいです。

「生まれてきてくれてありがとう。あなたは、『きせき』の子よ。」これは、ぼくが小さいころ、ねる前に母がよく言ってくれた言葉です。この言葉を聞くと、いやなことがあった日でも、安心して眠ることができました。秘密のまほうの言葉です。

この世に生まれてきた人は、みんな「きせき」の子だと思います。一人一人が生まれてきた時点で、それはもう「きせき」みたいにすばらしいことです。だから、ぼくは、この「きせき」の命を大切に、自分を信じて、一つ一つのことを精いっぱい努力して生きていきたいと思っています。そして、家族や友達の命も大切に、感謝の心をいつももっていたいと思います。